

開催年月日 令和3年3月12日（金）  
 質問者 日本共産党 宮川 潤 議員  
 答弁者 知事 鈴木 直道

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 知事の政治姿勢について                      (一) 2021年度予算等について                      1 知事の施政方針について                      (1) 第一次産業の位置づけについて</p> <p>道政執行方針の「ポストコロナの新たな未来を切り開く北海道づくり」で1番に位置付けられているのはデジタル化であり、農林水産業は8番目に、農林水産併せて僅か170文字記述されているのみであり、本道の進むべき大道として政策の中心により大きく位置付けるべきではありませんか。また、国連が採択した家族農業や小規模農業を守り発展させる方向性について、SDGsの観点からももっと力強く打ち出すべきですが、知事の見解を伺います。</p> <p>第一次産業の位置付けを質問いたしましたが、農業振興方針等についての答弁でした。水産業についても、SDGsにおいて「小規模で漁業を行う漁師たちが、海洋資源や市場を利用できるようにする」とされており、林業は、北海道地球温暖化対策推進計画で、「二酸化炭素吸収源としての森林の整備・保全等の推進」とされています。</p> <p>農業に加え、水産業、林業について、更に重きを置いた位置付けが必要であるということを指摘いたします。</p>	<p>(知事)</p> <p>農業の振興についてであります。農業は本道の基幹産業であり、家族経営を主体とする多様な担い手の方々が、水田や畑作、酪農、畜産、園芸など地域の様々な農業生産活動を通じて、環境保全や集落機能を維持するなど、本道経済のみならず、我が国の食料自給や多面的機能の発揮に大きく貢献しているものと認識をしております。</p> <p>現在策定中の新たな農業・農村振興推進計画においては、担い手の方々が、規模や形態にかかわらず、地域の主体性や個性を発揮しながら、多様な農業を展開できるよう支援していきますとともに、SDGsの達成に向けても、農業生産基盤の整備やスマート農業技術の導入、クリーン農業などを積極的に推進することとしております。</p> <p>私としては、こうした取組により、小規模農家の皆様をはじめ多様な担い手の方々が、将来に希望を持ち、次の世代に経営を引き継いでいくことができる力強い農業・農村の確立に取り組んでまいります。</p>